

【目次】

1. アーカイブ No.23

連載「日本労働会館物語」第 20 回 2010.12.02 発行の第 22 号に掲載
＜三菱一号館—ジョサイア・コンドルその 3＞

2. 出張講演・日産労連「議員団研修会」組織内議員、擁立労組、政治担当 30 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.23

連載「日本労働会館物語」第 20 回 2010.12.02 発行の第 22 号に掲載
連載「日本労働会館物語」第 20 回！

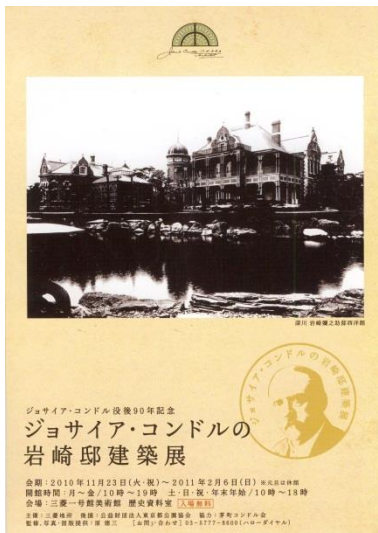
＜三菱一号館—ジョサイア・コンドルその 3＞



1894(明治 27)に惟一館(現・友愛会館)を完成させたジョサイア・コンドルは同年、東京基督教青年会館(神田青年会館)、三菱一号館(現・三菱一号館美術館)を竣工させています。

三菱一号館は 1968 年に老朽化のため解体されましたが、2009 年春に昔の姿で再建され、今は三菱一号館美術館となっています。本年 4 月 6 日に開館記念展Ⅰ「マネとモダン・パリ」(2010.4.6～7.25)を開き、8 月からは開館記念展Ⅱ「三菱が夢見た美術館」(2010.8.24～11.3)を開催しています。現在は「カンディンスキーと青騎士」展(2010.11.23～2011.2.6)を開催中です。

また、三菱一号館美術館では現在、同歴史資料室でジョサイア・コンドル没後 90 年記念の「コンドルの岩崎邸建築展」(2010.11.23～2011.2.6。入場無料)を同時開催しています。鹿鳴館、旧宮内省、旧海軍省など政府関連施設を数多く手がけたコンドルは、同時に岩崎家・三菱グループの建築物も設計しています。岩崎彌之助深川邸洋館、同高輪邸(現三菱開東閣)、岩崎久弥茅町本邸(現・旧岩崎邸庭園)、岩崎家廟などがあり、また丸の内レンガ街を構成した三菱一号館、三菱二号館、三菱三号館などがコンドルの設計として知られています。



今回の「コンドルの岩崎邸建築」展は、コンドルが手掛けた岩崎家関連の建物に関する展覧会であり、建築模型と写真、コンドル直筆の手紙などが展示されています。展示の目玉は岩崎彌之助高輪邸(現三菱開東閣)の巨大な模型です。

この「コンドルの岩崎邸建築展」には、コンドルが設計した岩崎久弥茅町本邸(現・旧岩崎邸庭園。重要文化財。東京・池之端)でボランティアのガイドをしている茅町コンドル会(旧岩崎邸庭園ボランティア・ガイドの会)のメンバーが交代で詰めて、来館者への案内を行っています。

「コンドルの岩崎邸建築」展：会期 2010.11.23～2011.2.6。入場無料、主催：三菱地所、後援：東京都公園協会、協力：茅町コンドル会、監修：原徳三。

ジョサイア・コンドルは、このように明治・大正期の洋館を多く設計し、「日本近代建築の父」と呼ばれますが、同時に日本文化への深い情熱を持った人でもありました。彼は絵師・河鍋暁斎に弟子入りして日本画を学び、1883(明治 16)年には「暁英」の号を受けています。

コンドルには『河鍋暁斎』(岩波文庫)、『日本のいけばな(英文)』(講談社)、『日本庭園入門』(講談社)などの著書があり、また彼の作品をまとめた『ジョサイア・コンドル建築図面集』(全 3 巻。中央公論美術出版)には惟一館の図面も収録されています。

なお、彼を紹介した本には『暁斎絵日記の中のコンドル』(河鍋暁斎記念美術館)、『物語ジョサイア・コンドル 丸の内赤レンガ街をつくった男』(中央公論新社)、『鹿鳴館を創った男—お雇い建築家 ジョサイア・コンドルの生涯』(河出書房新社)があり、この他コンドルの建築に言及した『網町三井倶楽部—J・コンドルの建築をめぐる』(中央公論美術出版)、『日本の近代建築』(岩波新書)、『近代日本の異色建築家』(朝日選書)などがあります。

2. 出張講演・日産労連「議員団研修会」

組織内議員、擁立労組、政治担当 30 名

11月5日(火)、日産労連の「議員団研修会」と銘打って、組織内議員、擁立労組、政治担当者 30 名に対し、常設展示「日本労働運動 100 年余—友愛会を中心に—」と戦前の社会民衆党、社会大衆党戦後の社会党、民社党の歴史を交え、講演を行った。歴史は未来を見る鏡であるとして、常設展示の「日本労働運動の 100 年余」に加えて、友愛会や社会主義運動など「友愛会の運動の詳細から民主的労働運動を探る」と称し、現代につながる運動の流れを講演。

期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の講演を説く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」など盛り沢山。鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。皆さんとっても熱心に受講しました。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

惟一館から130年、友愛会から112年